

出題意図・解答のポイント

研究科	ガバナンス研究科
課程	博士課程前期課程
入試種別	全入試種別共通
筆記試験科目	専門科目

ガバナンス研究科の筆記試験では、知識・技能、思考力・判断力・表現力等の能力を測ります。大学院での研究の遂行が可能な学部レベルでの基礎知識を評価するために、「法学」、「政治学・行政学」、「経済学」、「経営学」の各分野から論述形式の解答を求める出題となっています。

解答に際しては、専攻する専門分野や、研究分野となる2分野を選択することとし、その評価については、専門分野に関わる基礎知識の修得状況を評価するとともに、論理性も重視し評価します。

<ガバナンス研究科博士課程前期課程のアドミッションポリシーは以下のとおり>

ガバナンス研究科では、学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)及び教育課程編成の方針(カリキュラム・ポリシー)に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能、思考力・判断力・表現力等の能力及び主体的な態度を備えた人を博士課程前期課程に求めます。

1(知識・技能)

国際社会・高度情報化社会が抱える諸問題の根源にある背景を知識として有している。また政策研究は学際的であり、研究対象・方法の多様性という特徴を持つため、法学、政治学、行政学、経済学、経営学などの社会諸科学あるいは都市工学、環境学、統計学などの自然諸科学のうちのいずれかの分野について、学部レベルでの基礎知識を修得している。

2(思考・判断・表現)

実践的なコミュニケーション能力を軸とする「考動力」の基盤を有し、課題の発見やそれに対する政策の立案、そしてその政策を適切に評価する力の基礎を身に付けている。また、論理的思考及び表現の基本を身に付けている。

3(態度)

基本的なコミュニケーション能力を有し、グローバルあるいはローカルなレベルの諸問題解決に強い意欲を有している。

出題意図・解答のポイント

研究科	ガバナンス研究科
課程	博士課程前期課程
入試種別	全入試種別共通
筆記試験科目	英語

ガバナンス研究科の筆記試験では、知識・技能、思考力・判断力・表現力等の能力を測ります。英語の試験では、英語文献の読解に必要となる英語運用能力を評価するもので、社会科学全般にかかる設問内容となり、英語文献の読解能力、論理的思考力及び表現力を問う内容となっています。

<ガバナンス研究科博士課程前期課程のアドミッションポリシーは以下のとおり>

ガバナンス研究科では、学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)及び教育課程編成の方針(カリキュラム・ポリシー)に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能、思考力・判断力・表現力等の能力及び主体的な態度を備えた人を博士課程前期課程に求めます。

1(知識・技能)

国際社会・高度情報化社会が抱える諸問題の根源にある背景を知識として有している。また政策研究は学際的であり、研究対象・方法の多様性という特徴を持つため、法学、政治学、行政学、経済学、経営学などの社会諸科学あるいは都市工学、環境学、統計学などの自然諸科学のうちのいずれかの分野について、学部レベルでの基礎知識を修得している。

2(思考・判断・表現)

実践的なコミュニケーション能力を軸とする「考動力」の基盤を有し、課題の発見やそれに対する政策の立案、そしてその政策を適切に評価する力の基礎を身に付けている。また、論理的思考及び表現の基本を身に付けている。

3(態度)

基本的なコミュニケーション能力を有し、グローバルあるいはローカルなレベルの諸問題解決に強い意欲を有している。

出題意図・解答のポイント

研究科	ガバナンス研究科
課程	博士課程後期課程
入試種別	全入試種別共通
筆記試験科目	専門科目
<p>ガバナンス研究科の筆記試験では、知識・技能、思考力・判断力・表現力等の能力を測ります。大学院レベルでの社会科学諸分野の基礎知識、及び志望する専門分野の知識を評価するために、論述形式の解答を求める出題としています。</p> <p>評価については、志望する専門分野の知識を問うとともに、論理性も重視し評価します。</p> <p><ガバナンス研究科博士課程後期課程のアドミッションポリシーは以下のとおり></p> <p>ガバナンス研究科では、学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)及び教育課程編成の方針(カリキュラム・ポリシー)に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能、資質・能力及び態度を備えた人を博士課程後期課程に求めます。</p> <p>1(知識・技能)</p> <p>国際社会・高度情報化社会が抱える諸問題の根源にある背景を知識として有している。また政策研究は学際的であり、研究対象・方法の多様性という特徴を持つため、法学、政治学、行政学、経済学、経営学などの社会諸科学あるいは都市工学、環境学、統計学などの自然諸科学のうちのいずれかの分野について、大学院レベルでの基礎知識を修得している。</p> <p>2(思考・判断・表現)</p> <p>実践的なコミュニケーション能力を軸とする「考動力」の基盤を有し、課題の発見やそれに対する政策の立案、そしてその政策を適切に評価する高度な能力を身に付けている。また、論理的思考及び表現の高度な能力を身に付けている。</p> <p>3(態度)</p> <p>高度なコミュニケーション能力を有し、グローバルあるいはローカルなレベルの諸問題解決に強い意欲を有している。</p>	

出題意図・解答のポイント

研究科	ガバナンス研究科
課程	博士課程後期課程
入試種別	全入試種別共通
筆記試験科目	英語

ガバナンス研究科の筆記試験では、知識・技能、思考力・判断力・表現力等の能力を測ります。英語の試験では、英語文献の読解に必要となる英語運用能力を評価するもので、社会科学全般にかかる設問内容となり、文献の読解能力、論理的思考力及び表現力を問う内容となっています。

<ガバナンス研究科博士課程後期課程のアドミッションポリシーは以下のとおり>

ガバナンス研究科では、学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)及び教育課程編成の方針(カリキュラム・ポリシー)に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能、資質・能力及び態度を備えた人を博士課程後期課程に求めます。

1(知識・技能)

国際社会・高度情報化社会が抱える諸問題の根源にある背景を知識として有している。また政策研究は学際的であり、研究対象・方法の多様性という特徴を持つため、法学、政治学、行政学、経済学、経営学などの社会諸科学あるいは都市工学、環境学、統計学などの自然諸科学のうちのいずれかの分野について、大学院レベルでの基礎知識を修得している。

2(思考・判断・表現)

実践的なコミュニケーション能力を軸とする「考動力」の基盤を有し、課題の発見やそれに対する政策の立案、そしてその政策を適切に評価する高度な能力を身に付けている。また、論理的思考及び表現の高度な能力を身に付けている。

3(態度)

高度なコミュニケーション能力を有し、グローバルあるいはローカルなレベルの諸問題解決に強い意欲を有している。